中野幸一
財前　謙　編

検定　変体がな

初級編から応用編まで自己採点、
「書く」ことで段階的に覚える、
古典籍読解力のトレーニング法。

抄出見本

武蔵野書院

口絵：「竹取物語」初段　財前　謙　筆

目　次

凡例……4
変体がな修得のポイント……6

〔初級編〕　平がなの元の漢字を書いてみましょう……7
一　平がなのもとの漢字（字母）は？……8
［平がなの成立過程一覧表］……8
【練習1】五十音図の字母を確認しましょう……10
【練習2】いろは歌の平がな字母を確認しましょう……11
【練習3】いろいろな種類の平がなを書いてみましょう……13

〔中級編〕　さまざまな変体がな……29
一　さまざまな変体がなを読んでみましょう……30
①［別の変体がな一覧表］……30
二　実際に書かれたさまざまな変体がなの例……35
②［さまざまな変体がな使用例一覧表］……35
あ…35　い・う…36　え・お…37　か…39　き…40　く・け…41
こ…42　さ・し…44　す…45　せ・そ…46　た…48　ち・つ…49
て…50　と…51　な・に…53　ぬ・ね…54　の…55　は…56
ひ・ふ…57　へ・ほ…58　ま・み…60　む・め…61　も…62　や…63
ゆ・よ…64　ら…65　り・る…66　れ・ろ…67　わ…68　ゐ・ゑ…69
を…70　ん…71
【練習4】あ～お…38　【練習5】あ～こ…43　【練習6】あ～そ…47　【練習7】あ～と…52
【練習8】あ～の…55　【練習9】あ～ほ…59　【練習10】あ～も…62　【練習11】あ～よ…65
【練習12】あ～ろ…67　【練習13】あ～ゐ…69　【練習14】あ～を…70　【練習15】あ～ん…71
【練習16】変体がなと字母を書いてみましょう……72
【練習17】字母を書いてみましょう……76
【練習18】二文字の変体がなに挑戦してみましょう……79
【練習19】三文字の変体がなに挑戦してみましょう……81
【練習20】四文字の変体がなに挑戦してみましょう……83
【練習21】五～七文字の変体がなに挑戦してみましょう……85
三　変体がなの短い語句を読んでみましょう……88
【練習22】短い語句の変体がなを書いて読んでみましょう……88
【練習23】短い語句の変体がなを読んでみましょう……90
四　文字や句のくり返しを示す記号「をどり字（踊り）」……92
【練習24】をどり字を用いた語句を読んで書いてみましょう……92
コラム　間違いやすい変体がな……94

〔上級編〕　実際に書かれたさまざまな変体がなの例……95
一　いろいろな書風の変体がなを読んでみましょう……96
【練習25】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう①……96
【練習26】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう②……98
【練習27】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう③……100
【練習28】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう④……102
【練習29】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう⑤……104
二　同じ語句でも違う書き方……106
【練習30】いろいろな書風の変体がなに触れてみましょう⑥……106
三　よく出てくる漢字の草書をマスターしよう……109

〔応用編〕　読解演習……113
百人一首（寛文九年　花園実満筆）……114
紫式部日記（江戸中期写）……116
つれづれ草（江戸初期写）……118
恋十五首歌合（江戸初期写）……120
詞花和歌集（室町末期写）……122
源氏釈（鎌倉中期写　伝藤原為家筆）……124
僻案抄（室町中期写　足利義尚筆）……126
源氏一部抜書（室町中期写　猪苗代兼載筆）……128
古今和歌集（室町末期写　青連院尊朝法親王筆）……130
源氏物語「夕顔」（室町末期写）……132
源氏物語「胡蝶」（江戸初期写）……134
土御門院御百首（江戸初期写　照光院道晃法親王筆）……136
伊勢物語（承応三年　竹中季有筆）……138
御裳濯河歌合（延宝二年　中院通茂筆）……140
未来記（享保八年　千種有統筆）……142
うつほ物語（古活字版）……144
おさな源氏（寛文十二年刊　松会版）……146
落窪物語（寛政十一年刊）……148
春日参向記（永正二年　三条西実隆筆）……150

凡例

一　本書は、とかく一般の方々には読みにくい変体がなに親しみ、それをすらすらと読めるようになっていただくための練習書として編集しました。

二　練習の内容を、初級編・中級編・上級編・応用編の四段階に分けましたので、段階を追って無理なく進めてください。

三　練習には、一応の目安として達成度の評価を示しました。それに従ってあせらずに練習してください。

四　最後の応用編は、現在伝来している文献資料のうち、ことに多い室町末期から江戸中期にかけての写本・版本の中から、いろいろな筆跡のものを集めました。これらをくり返し読んで、どのような文学の文献にも対応できる実力を養ってください。

五　本書に使用した筆跡や文献は、すべて現存するものを用いました。その典拠とした資料とその略号は左記のとおりです。なお、「伝」とあるのは伝称筆者名です。

高一　高野切古今集第一種　伝紀貫之筆
高二　高野切古今集第二種　伝紀貫之筆（源兼行筆）
高三　高野切古今集第三種　伝紀貫之筆
寸色　寸松庵色紙　伝紀貫之筆
自家　自家集切　伝紀貫之筆
名家　名家家集切　伝紀貫之筆
桂万　桂本万葉集（栂尾切）伝紀貫之筆・伝源順筆（源兼行筆）
秋萩　秋萩帖　伝小野道風筆
継色　継色紙　伝小野道風筆
小島　小島切　伝小野道風筆
本阿　本阿弥切古今集　伝小野道風筆
八幡　八幡切　伝小野道風筆
下万　下絵万葉集抄切　伝小野道風筆・伝藤原佐理
綾地　綾地歌切（賀歌切）伝藤原佐理筆
筋切　筋切・通切　伝藤原佐理筆（藤原定実筆）
紙捻　紙捻切　伝藤原佐理筆
蓬萊　蓬萊切　伝藤原行成筆
関古　関戸本古今集　伝藤原行成筆
曼寺　曼殊院本古今集　伝藤原行成筆
雲和　雲紙本和漢朗詠集　伝藤原行成筆
関和　関戸本和漢朗詠集　伝藤原行成筆
近和　近衛本和漢朗詠集　伝藤原行成筆
粘和　粘葉本和漢朗詠集　伝藤原行成筆
大和　大字和漢朗詠集切　伝藤原行成筆
讃岐　讃岐守顕季家歌合（松籟切）伝藤原行成筆
金砂　金砂子切万葉集　伝藤原行成筆
猿丸　猿丸集切　伝藤原行成筆
安宅　安宅切和漢朗詠集　伝藤原行成筆
伊予　伊予切和漢朗詠集　伝藤原行成筆
針切　針切　伝藤原行成筆
貫之　貫之集切　伝藤原行成筆
和泉　和泉式部続集切　伝藤原行成筆・伝藤原公任筆
深窓　深窓秘抄　伝宗尊親王筆
升色　升色紙　伝藤原行成筆
仮書　仮名書状　伝藤原行成筆
徳川　徳川家本重之集　伝藤原行成筆
三十　三十人撰　伝藤原行成筆
元万　元暦校本万葉集（難波切・有栖川切）（寄合書）
藍万　藍紙本万葉集　伝藤原公任筆（藤原伊房筆）
金沢　金沢本万葉集　伝藤原公任筆・伝源俊頼筆（藤原定信筆）
巻和　巻子本和漢朗詠集　伝藤原公任筆
堺色　堺色紙　伝藤原公任筆
大色　大色紙　伝藤原公任筆
小色　小色紙　伝藤原公任筆
十五　十五番歌合　伝藤原公任筆
下和　下絵和漢朗詠集切　伝藤原公任筆
朗詠　朗詠集切　伝藤原公任筆
敦忠　敦忠集切　伝藤原公任筆
太田　太田切本和漢朗詠集　伝藤原公任筆
砂子　砂子切　伝藤原公任筆
荒木　荒木切　伝藤原公任筆・伝藤原行成筆
久海　久海切　伝紫式部筆
端白　端白切　伝大弐三位筆
香紙　香紙切　伝小大君筆
御蔵　御蔵切　伝小大君筆
尼崎　尼崎本万葉集　伝源俊頼筆
元古　元永本古今集　伝源俊頼筆（藤原定実筆）
巻古　巻子本古今集　伝源俊頼筆
三宝　三宝絵詞（東大寺切）伝源俊頼筆
唐紙　唐紙拾遺抄切　伝源俊頼筆・伝藤原公任筆
京関　京極関白集切　伝源俊頼筆
下拾　下絵拾遺抄切　伝源俊頼筆
御堂　御堂関白集切　伝源俊頼筆
入右　入道右大臣集　伝源俊頼筆

昭和　昭和切　藤原俊成筆
住吉　住吉切　藤原俊成筆
御家　御家切　藤原俊成筆
顕広　顕広切　藤原俊成筆
日野　日野切　藤原俊成筆
佚名　佚名家集切　伝西行筆
出雲　出雲切　伝西行筆
一条　一条拭政集　伝西行筆
右衛　右衛門切　伝寂蓮筆
平等　平等院切　伝源頼政筆
多賀　多賀切　藤原基俊筆
永和　永暦本和漢朗詠集　伝藤原伊行筆
戊辰　戊辰切　伝藤原伊行筆
御更　御物本更級日記　藤原定家筆
近代　近代秀歌　藤原定家筆
定三　三百詠草　藤原定家筆
詠草　詠草切　藤原定家筆
定懐　定家和歌懐紙
二十　二十巻本類聚歌合（伊丹切・柏木切・二条切・歌合切）伝藤原俊忠筆他
下古　下絵古今集切　伝藤原定頼筆
唯心　唯心房集　伝坊門局筆
竜山　竜山切　伝源通親筆
尼子　尼子切拾遺抄　伝藤原伊経筆
久世　久世切　伝藤原伊経筆
道済　道済集切　伝藤原忠家筆
仁和　仁和寺切（天治本万葉集）伝藤原忠家筆
金切　金葉集切　伝藤原為家筆
姫路　姫路切　伝藤原為家筆
竜田　竜田切　伝源家長筆
中山　中山切　伝藤原兼実筆
内侍　内侍切　伝藤原良経筆
色紙　色紙　伝藤原良経筆
二荒　二荒山本後撰集　伝藤原雅経筆（藤原教長筆）
長谷　長谷切　伝藤原雅経筆（藤原教長筆）
切箔　切箔切　伝藤原雅経筆
今城　今城切　伝藤原雅経筆（藤原教長筆）
信貴　信貴山縁起絵巻詞書　伝藤原雅経筆
広沢　広沢切　伝後伏見院筆（伏見院筆）
後京　後京極切
如意　如意宝集切　伝宗尊親王筆
十歌　十巻本歌合　伝宗尊親王筆
金万　金沢文庫本万葉集　伝尊円親王筆・伝飛鳥井雅世筆
証源　証本源氏物語　三条西公条筆
青源　青表紙本源氏物語
寂古　寂恵筆古今和歌集
新古　新古今和歌集　伝藤原為氏筆
四条　御所本四条宮下野集
土佐　土佐日記　三条西家本
平中　平中物語　伝藤原為相筆
好忠　曽称好忠集　伝藤原為相筆
金葉　金葉和歌集　伝藤原為相筆
源絵　源氏物語絵巻詞書　伝寂蓮筆・伝藤原良経筆
御三　御所本三十六人集
西三　西本願寺本三十六人集
宣命　孝謙天皇宣命
文書　万葉仮名文書
神楽　神楽歌　伝源信義筆
賀陽　賀陽院水閣歌合　伝藤原資業筆
徒然　徒然草　正徹筆
良寛　月の兎帖　良寛筆
兼百　兼載筆百人一首
道寛　道寛法親王筆和歌巻物
熊野　熊野懐紙　後鳥羽院筆
後柏　後柏原院和歌懐紙
後陽　後陽成院和歌懐紙
後奈　後奈良院和歌懐紙
実懐　三条西実隆和歌懐紙
松花　松花堂昭乗筆三十六歌仙色紙
素庵　角倉素庵筆隆達節
尾形　尾形宗謙和歌懐紙
光悦　木阿弥光悦筆和歌巻
正懐　正徹和歌懐紙
信尹　近衛信尹筆女房三十六歌仙
活宇　古活字版宇津保物語
活小　古活字版源氏小鏡

六　本書の編集に際しては、武蔵野書院前田智彦社長の献身的なご援助をいただきました。銘記して心より感謝申しあげる次第です。

平成二十四年十月

中野幸一
財前謙

変体がな修得のポイント

人それぞれに顔が違うように、筆跡は一つとして同じものはありません。また共通の規範などなかった時代の変体がなには同じ字でも想像を超えた振幅があり、そのことが変体がなを難しくしている最大の理由といえましょう。テキストで変体がなを憶えたつもりでも、いざ筆跡が異るとまるっきり読めないという人をしばしば見かけます。

肝心なのは字の形を憶えることではなく、瞬時に変体がなの書かれた筆先を追えるかどうかです。そのためには頭で憶えるのではなく、手で書いて身体全体でこれを身につけることが何より求められます。

本書では直接変体がなを書きこみながらこれを身につけていけるように編集しています。結果だけを急がず、書くことに時間をかけて取り組んでください。しかし紙数には限界がありますので、すべてにそのような欄を設けることはできません。設問にはなくても出てきた変体がなを書いて理解するように心掛けていきましょう。

頭で憶えたものはすぐ忘れてしまうのが人の常です。ところが身体が身につけたものはいつまでたっても残るものです。いわば車の運転のようなものとお考えください。辛抱強く、書きながら本書に取り組まれ、抵抗なく変体がなが読めるようになることを期待しています。

財前　謙

口絵釈文

①いまはむかしたけとりのおきなといふものありけり　のやまにまじりてたけをとりつゝよろつのことにつかひけり　なをはさかきのみやつことなむいひける　そのたけのなかにもとひかるたけなんひとすちありける　あやしかりてよりて見るにつゝのなかひかりたり　それをみれは三寸はかりなるひといとうつくしうてゐたり　おきないふやうわれあさことゆふこと見るた

②けのなかにおはするにてしりぬことなりたまふへき人なめりとて、にうちいれて家へもちてきぬ　めのめにあつけてやしなはす　うつくしきことかきりなしいとおさなけれはこにいれてやしなふ　たけとりのおきなたけをとるにこのこをみつけてのちにたけとるにふしをへたて、夜ことにこかねあるたけをみつくることかさなりぬ　かくてお

③きなやう、ゆたかになりゆくこのちこやしなふほとにすくゝとおほきになりまさる　三月はかりになるほとによきほとなる人になりぬれはかみあけなとさうしてかみあけさせ裳きすちやうのうちよりもいたさすいつきやしなふ　このちこのかたちけうらなることよになくやのうちはくらきところなくひかりみちたり　おきなここち

④あしくゝるしきときもこのこをみれはくるしきこともやみぬ　はらたゝしきこともなくさみけり　おきなたけをとることひさしくなりぬ　いきおひまうのものになりにけり　この子いとおほきになりぬれはなを三室戸齋部のあきたをよひてつけさす　あきたなよたけのかくやひめとつけつ　このほと三日うちあけあそふよろつのあそひをそしける　おとこはうけきらはすよひつとへていとかしこくあそふ

「竹取物語」初段

初級編

［練習3］ いろいろな字形の平がなを書いてみましょう。
それぞれの平がなをなぞり書きしてから、□に書いてみましょう。

中級編

二　実際に書かれたさまざまな変体がなの例

初級編では、平がなのもとになった漢字をくずした基本の変体がなを学びました。

中級編「一　さまざまな変体がなを読んでみましょう」では、そのほかの漢字をくずした変体がなについて触れました。たとえば「あ」には「安・阿・愛・悪」などをくずした変体がながあることが分かりました。

この中級編「二　実際に書かれたさまざまな変体がなの例」では、それらの変体がなが、実際に筆で書かれた場合はどうなるか、その実態について学ぶことにいたします。

現代のわたくしたちが書く文字も、人それぞれに書きぐせがあって、同じ筆跡のものはありません。少し誇張的にいえば、百人いれば百の書風があるといってもよいでしょう。また同一人の筆跡でも、若い頃の字と晩年になってからの字とは違いますし、同じ時期の字でも、ペンや筆の具合によって同じではありません。

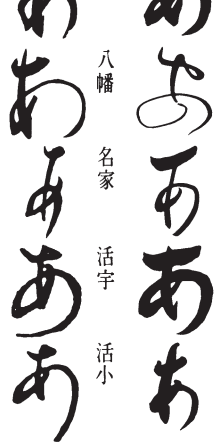
筆で書かれた古い写本の文字も、書く人によってさまざまで、ましてや変体がなともなれば、そのくずし方は実に多様です。そのさまざまに書かれた変体がなを読もうとするには、その実態を見ておく必要があります。といっても、百人百様の書風をすべて掲げるわけにもいきませんので、ここでは代表的な古筆切や写本からさまざまな書風の変体がなを示しておきました。

ここに掲げた文字は、これまでと同様、すべて現存の文献資料の中に実際に使用されているものです。右側の略号については、「凡例五」（4～5頁）を参考にしてください。

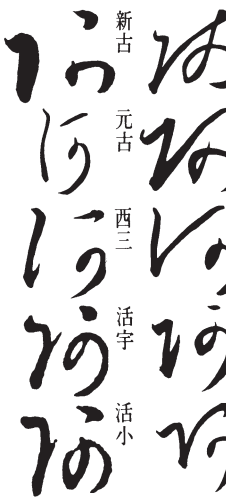
②［さまざまな変体がな使用例一覧］

あ

安



阿



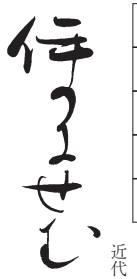
愛

悪

［練習4］ あ～お

次の□内を埋めてみましょう。

① □かにせむ



近代

② □ふことなし

新古

③ □らみ

高二

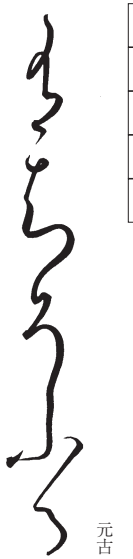
④ から□して

御更

⑤ □るかきり

御更

⑥ □ちそふる



元古

⑦ ま□す

高三

⑧ □ちわたす

高三

⑨ み□つらん

顕広

⑩ とた□のみして

二十

⑪ かけみ□て

下拾

⑫ □もひかね

詠草

⑬ ふちはらの□きかせ

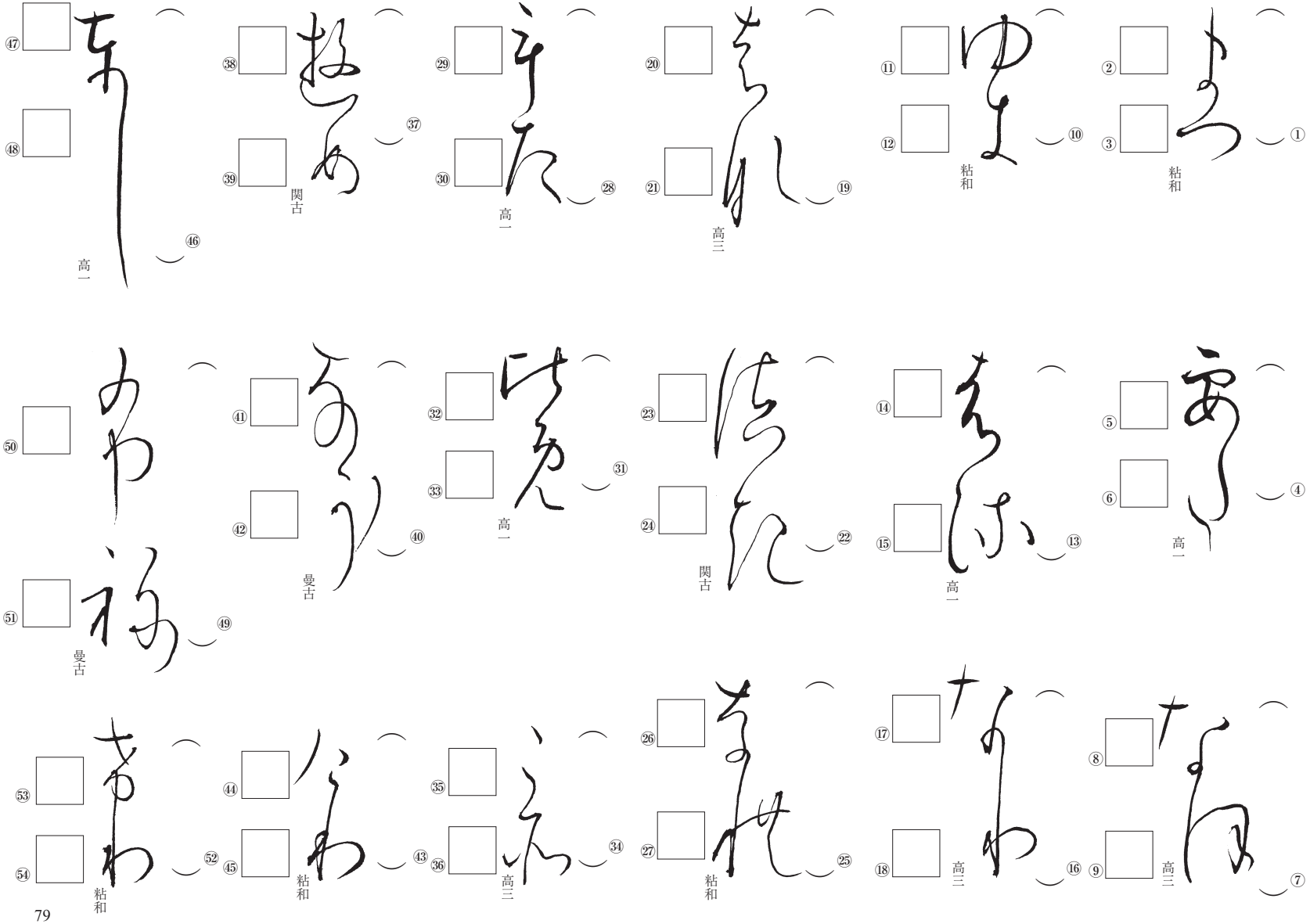
高二

《評価》

正解10字以上…合格です。分からなかった字を確かめてから先へ進んでください。
正解9字以下…もう一歩の努力です。分からなかった字を確かめて、もう一度やってみましょう。
正解6字以下…もう一度前の表をよく覚え直して、再挑戦しましょう。

［練習18］ 二文字の変体がなに挑戦してみましょう

次の二文字の変体がなの読みを右側に平がなで書き、その字母を左側に書きましょう。



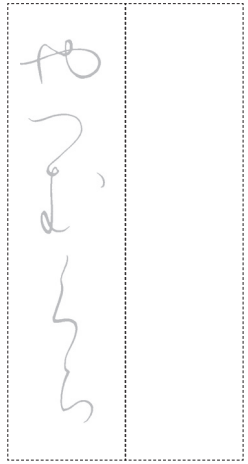
三　変体がなの短い語句を読んでみましょう

変体がなとそのもとになった漢字（字母）とが自由に分かるようになったら、いよいよ実際の変体がなを読む練習にはいります。

変体がなをすらすらと読めるようにするには、とにかく練習を重ねて変体がなに習熟することが肝要です。そこで、比較的短い語句の変体がなに馴れることからはじめましょう。

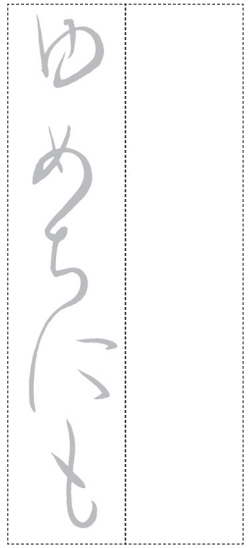
［練習22］ 短い語句の変体がなを書いて読んでみましょう

つぎの変体がなの右側の□の中に、まずなぞり書きし、その書風をそのまま写して書いてみましょう（筆記具は毛筆か筆ペンですと、より上手に書写できます）。また、語句の読みを、左側の（　）の中に示してください。



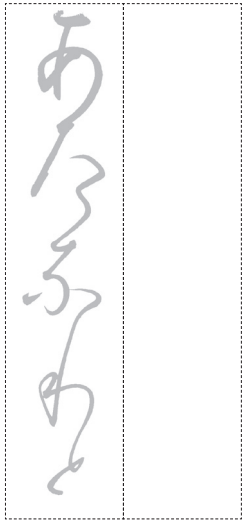
三十

①（　　）



関古

②（　　）



高一

③（　　）

土佐

④（　　）